

加治木図書館 2018 1月 展示紹介

新年明けまして
おめでとうございます。
今年も 加治木図書館 を
よろしくお願いいたします！

若い人に贈る 読書のすすめ

若いときに読書をするのは、のちの生き方に必ず大きな実りをもたらします。
幸せな本との出会いが、より一層あなたの人生を彩りますように。



『僕たちが何者でもなかった頃の話しよう』

山中伸弥 羽生善治 是枝裕和 山極壽一 永田和宏

／著（文藝春秋）

京都産業大学での講演・対談シリーズ。

どんな偉大な人にも、悩み、失敗を重ねた挫折のときがあった。彼らの背中を押してチャレンジさせたものはなんだったのか。『あんな偉い人でも、自分と同じじゃないか』ということを感じ取ってほしい1冊です。



『かがみの孤城』

辻村 深月／著（ポプラ社）

あなたを助きたい。不登校の少女が鏡の向こうの世界で出会ったのは…。すべての謎が明らかになるとき、驚きとともに大きな感動に包まれます。

生きづらさを感じているすべての人に贈る物語。一気読み必至の著者最高傑作です。

成年 今年も犬が主役だワン！

成年だからこそ、より身近に犬を感じませんか？

そこで、犬が登場する本や主人公の絵本を集めてみました。



西郷隆盛の魅力発信！

明治維新から150年を迎える今こそ読みたい一冊。



『いぬかって！』

のぶみ/作・絵（岩崎書店）

犬に限らず、動物を飼いたいとおねだりするのどこの子供でもよく見られる事。そして「可愛がるのは最初だけで、結局親が面倒見てるでしょ」と怒られる。どこにでもある展開の中で主人公は「命」の重さと自分の中でちょっと芽生えた悪い心に責められます。

生き物を飼う前に子供に読んであげたい1冊です。



『西郷隆盛 人を魅きつける力』

童門 冬二／著（PHP研究所）

なぜ、西郷隆盛は日本人の心をとらえてやまないのか。その生涯と実像を追っていくと、知られざる魅力だけではなく、現代人が学ぶべきものが次々と見えてくる。島津斉彬、大久保利通や坂本龍馬らとのエピソードを交えつつ、その生涯と実像に迫る。